

志賀町富来地域をキャラクター「ますほん」と共に紹介しよう

学生団体名 観光振興サークル（金沢工業高等専門学校）

参加学生 山崎寛人・青木友里・厚見博基・武田愛未・山村春菜

1. 地域活動の概要

これまで2年間のプロジェクト活動において富来商工会の方々と共にスマートフォンのための位置情報アプリや「遊び」を取り入れたアプリを開発し、提案してきた。また、観光振興のシンボルとしてキャラクター「ますほん」も共同で考案し、そのポスターなども作成してきた。本プロジェクトではポスターを利活用するためのアプリの提案および開発を行い、「ますほん」をアピールするためのグッズの試作品の作成を行った。

2. 地域活動の具体的な内容

● 活動の骨子

「ますほん」をアピールするためのグッズやポスターを利活用するためのアプリを検討する。富来地域で開催されるイベントに協力するとともに、これらの試作品をイベントで展示や配布を行う。

● 本年度の活動に対するミーティング

活動日：平成26年7月24日、学生（5名）、富来商工会（2名）

富来商工会の代表者と本年度の活動に関する打ち合わせを行った。また、7月末に行われるイベントでピザの出店を予定しており、富来商工会の方から協力依頼があったため、ピザ窯を使用して試作品の作成を行った。図1はそのときの様子を示している。



(a) 富来商工会事務所内でのミーティング



(b) 富来地区内の実地訪問



(c) イベント協力（ピザの考案）



(d) 地元企業が提案するピザ窯

図1 初回訪問時の活動（ミーティング、イベント協力）

● イベント協力 (スタンプ会)

活動日：平成 26 年 11 月 16 日，学生 (4 名)，富来商工会およびスタッフ (多数)

スタンプ会イベント (図 2) でのイベント協力を行った。イベントの設営などを行いながら、空き時間を使って富来商工会の担当者と今後の打ち合わせを行った。また、2 月に行われる大漁起舟祭での活動内容について意見交換を行った。



(a) イベント会場設営手伝い



(b) 販売の手伝い



(c) ステージ上でのインタビュー



(d) 消火器使用方法の教習

図 2 スタンプ会におけるイベント協力

● グッズの検討と製作

富来商工会と共同で考案したマスコットキャラクター「ますほん」を多くの富来住民の方々に知ってもらうために、「ますほん」のグッズ (の試作品) を作り、それらを富来の住民の方々に配ることにした。グッズとしては「ますほん」のシールやマグネット、タトゥーシールなどを作成した。さらに 3D プリンタで造型したキーホルダーや、ペン立てなどに「ますほん」のシールを貼ることでオリジナルグッズを作成した。図 3 は作成したシールやマグネットなどを梱包している様子である。図 4 は 3D プリンタで作成したグッズである。



図 3 グッズの梱包



図 4 3D プリンタで作成したグッズ

- グッズの配布（大漁起舟祭）

2月11日に開催された志賀町祭 第4回 大漁起舟祭で富来商工会青年部の模擬店の手伝いをさせてもらいながら、作成した「ますほん」のグッズをくぼって広告活動をした。図5は広告活動の様子である。



図5 大漁起舟祭における広報活動およびイベント協力

- アプリの開発

グッズを渡すときにくじをしてもらうことでより楽しんでもらえ、さらにイベントを盛り上げようと、くじ引きアプリを作成した。左にあるボタンを押すことで当たりと外れがある確率で表示される。この確率は25%、50%、75%で変更できるようにした。図6はくじ引きアプリのトップ画面である。

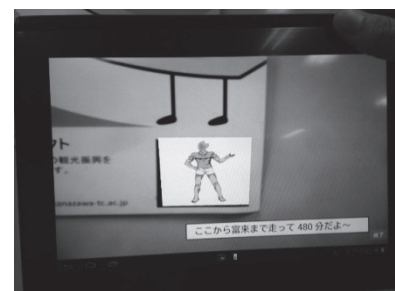


図6 くじ引きアプリのトップ画面

一方、「ますほん」のポスターを利活用するためにポスター用のARアプリを開発した(図7)。ポスターにはARマーカ(「富」と「来」)が既に記載されており、「富」マーカを映すことで「ますほん」の画像が表示されるとともに、5種類のメッセージがランダムに表示される。また、「来」マーカを映すことで別のキャラクターが表示される。GPS情報によって、現在の位置から富来の道の駅までの(ジョギング程度のスピードで走った場合の)時間を計算し、表示する。



(a) 「富」マーカを映した場合



(b) 「来」マーカを映した場合

図7 ポスター用ARアプリ

3. 地域活動の成果

富来の住民の方々にキャラクター「ますほん」を知ってもらうために、グッズを作成して配ったり、ポスターを利用したアプリを検討したりして、その取り組みが実現するように地域の方々と活動を行った。私たちが富来地区と活動をしたことにより、地域を盛り上げるきっかけを作ることができたのではないかと考えている。

4. 来年度の地域活動計画

富来のマスコットキャラクター「ますほん」を富来の住民の方に知ってもらうためにグッズやアプリを作って活動した。しかし、今回の広告活動によって「ますほん」というマスコットキャラクターの認知度は感覚的に高まったように感じたが、定量的な評価は行えなかった。今後はアンケートなどを実施し、定量的な評価を行う必要がある。今後の課題としては広告活動の機会を増やし、「ますほん」をさらにアピールする新たなアプリを開発・実運用することで「ますほん」を広め、富来を知ってもらう機会が増えることが期待される。

5. 学生の感想

富来商工会の方々とプロジェクトを通じて、住民の方々の暖かさを感じた。私たちのプロジェクトのために富来地区の多くの方々に協力していただき大変感謝している。今後もこのプロジェクトを継続することで、より多くの人々が富来地区に出向き、富来地区に対する関心が高まることを願っている。

6. 地域活動に対する地域からの評価

今年度の事業は同じ金沢高専の学生のみなさんに支援いただいたものであったが、今まではみなさんの持っているスキル、AR ソフトなどの後方支援に対し、今回は直接的なイベント等の提案と運営支援というものであった。とはいえ、当初私たちが考えるイベントに悉く学校行事や卒論、試験と重なり、これは今年は無理だなと正直感じてはいた。しかし、みなさんはその忙しい中、一所懸命時間を作り遠い富来の地までやって来ていただいたことには感謝しています。

本来なら、事業終了である発表を終えていたのにも関わらず2月11日の志賀町町祭には寒い中、我々の新商品宣伝への取り組みをキャラクターグッズを用いて側面支援をしてもらったのは本当にありがたいことで改めて支援プロジェクトの有難さを感じた本事業だったと思います。